

年度:2020年 LOM番号:0352

【褒賞申請書】

事業名称	未来学校へ行こう！～みんなでワクワク体験～
カテゴリー	最優秀LOM地域向上プログラム

申請LOM	東北地区山形ブロック南陽青年会議所
LOMの人数	46名
理事長名	北野 淑人
担当者名	川合 信也
担当者携帯番号	090-756-7830 担当者Mail: shinyaka1015@gmail.com
事務局住所	山形県南陽市若狭郷屋605-2
事務局TEL	0238-43-6411 事務局FAX:0238-43-7848

本事業の参加者	会員数	33名
	関係者数	5名
	一般参加者数	22名
事業実施に至る背景 400文字程度	社会の在り方が大きく変化している近年、最先端テクノロジーを活用する未来を考えることは不可欠と言えます。どのような未来がやってくるのか、子供から大人までが一緒になって、新しい技術や考え方を学び、これからの生活や仕事に夢を描くことのできる事業が必要です。	
事業目的 400文字程度	<p>(対外) 新しい技術を楽しみながら学び、未来に対してワクワクした気持ちを持ってもらうことを目的とします。</p> <p>(対内) 新しい技術への理解を深め、それを地域の課題にどのように活かすことができるか学ぶことを目的とします</p>	
SDG'sの該当項目	<p>(SDG'sの該当項目を記載) ゴール4 質の高い教育をみんなに 子供たちに最新技術に学びふれてもらうことでこれらの技術が生活にどう活</p>	

	用できるか学ぶ機会とする。
--	---------------

事業概要 400文字程度	・IOTなどの最先端テクノロジーは、少子高齢化、地方の過疎化に対する課題解決を目指すだけでなく、未来を生きる子どもたちが、これらの技術が私たちの生活にどのように関わりどんな未来をもたらすのかを学び活かす事で、一人一人が希望をもち活躍できる未来とすることができます。講演では、IOTとはなんなのか、どんな新しい技術があるのか、どんなことを学んでいけばよいのか、お話いただきます。また、私たちの住む地域で、それらの技術をどう活用できるかにも触れていただきます。どんな未来がやってくるのか、より身近に、より親しみやすく、学ぶことができる時間にします。 ・マイクロビット体験、3Dプリンター体験の体験事業
開催期間・ タイムスケジュール	2019年8月4日(日) 8:00~15:00
開催場所	熱中小学校
事業区分	新規事業
公益・共益区分	公益
事業総予算・収支	予算総額: ¥475,000— 決算総額: ¥467,663— 差額 ¥7,337— ○予算総額内訳 会場設営費: ¥7,560— 企画演出費: ¥264,588— 講師関係費: 118,800— 広報費: ¥73,115— 通信費: ¥2,520— 雑費: ¥1,080— 予備費: ¥7,337— ○支出内訳 会場設営費: ¥7,560— 企画演出費: ¥264,588— 講師関係費: 118,800— 広報費: ¥73,115— 通信費: ¥2,520— 雑費: ¥1,080—

協力団体	講師	内海 弦 氏 Arm(アーム)株式会社 代表取締役社長
	講師、会場	熱中小学校
事業対象者	南陽市内の小学生、中学生および保護者	
行動 (ACTION TAKEN) 400文字程度	<p>○事業の調査 子供達に触れて欲しい最先端技術とはなにかを調査。大人への学びを提供する熱中小学校のメンバーがいたため相談し企画に至りました。</p> <p>○立案 熱中小学校のメンバーと講師が誰がいいのか、子供達に体験して欲しいことはなにかを委員会メンバーとともに話し身近に触れるスマートフォンにも使われるマイクロビットに着目しました。</p> <p>○会議の流れ 熱中小学校へ行きみずから体験を行い、会議を重ねました。</p> <p>○実施活動 ・広報活動としてポスターの掲示依頼、南陽市内の学校を全てうかがいPR活動を行いました。またメンバーでの事前体験をおこなうことにより当日メンバーが子供体をサポートできる体制を構築しました。</p>	
結果 (RESULT)	<p>本事業の目的「新しい技術を楽しみながら学び、未来に対してワクワクした気持ちを持ってもらうこと」は達成できたと判断します。また、講演の後で設けた30分間の質問コーナーで、時間いっぱいまで途切れることなく質問ができたこと、親子双方から思い思いの質問がでていたことから、参加者の多くが前向きに学べたことが伺えました。</p>	

地域社会への影響 400文字程度	<p>IOTなどの最先端テクノロジーは、少子高齢化、地方の過疎化に対する課題解決を目指すだけでなく、未来を生きる子どもたちが、これらの技術が私たちの生活にどのように関わりどんな未来をもたらすのかを学び活かす事で、一人一人が希望をもち活躍できる未来とすることができました。講演では、IOTとはなんなのか、どんな新しい技術があるのか、どんなことを学んでいけばよいのかお話いただくことで、私たちの住む地域でそれらの技術をどう活用できるかにも触れていただくことができました。</p>
---------------------	---

<p>LOMへの影響</p> <p>400文字程度</p>	<p>(この事業がLOMに与えた影響を記入)</p> <p>「新しい技術への理解を深め、それを地域の課題にどのように活かすことができるか学ぶ」ことは達成できたと判断します。地域課題に新しい技術をどう活かすかという部分は、予定していた講演内容で触れられませんでした。メンバーそれぞれが、当日感じたことから、考えてくれました。</p>
<p>事業の長期的な影響</p> <p>400文字程度</p>	<p>(この事業が期待される長期的な影響を記入)</p> <p>最先端技術は私たちの身の回りの生活に溢れています。しかしながらその技術はどのようなものか分かる人は少ないのが現状です。学校教育についても通常学びふれる機会は少ないものです。この事業を通して子供達が興味を持ち、未来の職業としての捉えたり自身の未来へのワクワクすることができました。</p>
<p>考察や推奨</p> <p>400文字程度</p>	<p>(検証を踏まえた次の行動を記入)</p> <p>IoT分野の最前線にいる内海弦氏の講演、新しい技術の体験学習の両輪で、親子でワクワクしながら未来を学べる事業を行いました。ソフトバンクグループで次世代事業の中核を担う方に講師をしていただけたのは、委員会発足時からこの事業を見据えて準備をしてきたからに他なりません。プログラミングで電車を動かす IoT 体験学習ではシアトルからの視察もあり、面白い試みだと評価いただきました。</p> <p>素晴らしい体験(インプット)は、発信・実行(アウトプット)したときに初めて実になります。今回は講演後の質問コーナーを長く設定しました。講演で聞いたことをアウトプットする人は100人に5人とされています。つまりほとんどの人は、「いい話を聞いたな」という一時的感動で終わり、時間の経過と共に記憶も薄れていってしまうということです。次々と質問が飛び出した30分間は、参加者にとって実りある時間となったはず。活発な質疑あってこそ、いい講演会だと思います。質問がでなかったらどうするのではなく、しっかり質問ができるような構成と準備をするべきだと考えます。今回も、電話での申し込み確認時、郵送した登録証明書、当日のアナウンスとできる限りの案内をした結果です。</p> <p>年始の予算組みが甘く、予定していた体験学習を行えなかったことは反省点のひとつです。アニメーションやゲームをつくるプログラミングツール「ピョンキー」を使い、プログラミングの基礎に触れる企画でした。実践編である電車を動かす学習とセットで行うことによってプログラミングへの理解を深める予定でしたが、これを無くした結果、プログラミング学習をもっと丁寧にやって欲しかったという意見を親御さんから複数いただきました。一方で、子供たちから</p>

	<p>は簡単だったという声もありました。結果を先に見せるアプローチも間違いではありませんので、今回の体験が彼らのこれからの学習に役立っていくはず です。</p> <p>内海氏の講演を聴き、新しい技術に触れることで、多くの参加者に未来を明る いものとしてイメージしてもらうことができました。これを親子で共有できたこ とは、時には今までと異なる考え方・方法で進んでいかななくてはならなくなるこ とが予想される子供たち、またそれを受け止める親たちにとっても、意義のあ ることでした。子供たちが、我々では想像もしなかったような夢を描き、明るい 未来を創っていくことに繋がっていくものと考えます。</p> <p>JC に入会する前に一般参加した青少年育成事業で、参加者の子供が講師 に質問しているのを見て、この子にとって忘れられない時間になっただろうな と感じたことを覚えています。今回も、そうであったことを願いつつ、子供たち に何かを体験してもらうというこの事業は、今後も継続していくべきだと考えま す。</p>
改善点	<p>(改善点があれば記入)</p> <p>講演でお願いしていた内容が盛り込まれませんでした。打合せは行いましたが、直前も確認するなど配慮が必要でした。</p> <p>小中学校へのPRの際、教室を回るケースがほとんどでしたが、時間の関係 上、DVDを使用することができませんでした。</p> <p>親御さんへのPRが計画段階から必要でした。</p> <p>小中学校PRで2回目の際に、使用したマイクロビットは持ち帰れるという話を するようにしたところ、反応もよく直前での申し込みに繋がりました。チラシ、1 回目のPR、内容を伝えるだけでなく、行きたいと思ってもらえる工夫が必要で した。</p> <p>中学生の参加がありませんでした。対象に含める是非について計画段階から 意見をいただいていたのですが、部活などの活動が小学生より多く、日時選定 に問題がありました。</p> <p>Web 申し込みで、申し込みが完了しているのかわからないといった電話をい ただきました。もっと速く電話をするべきでした。また、受付システムの構築が 必要です</p> <p>間違ったタイトルのバレンを張ってしまい、事業終了まで気が付きませんでし た。</p> <p>マイクロビット学習が長引きました。また、説明が少なかつたとの意見がありま した。当日と同じ内容の体験を事前に行うべきでした。</p>

<p>JCI活動計画の推進</p> <p>JCI VISION活動計画の推進</p> <p>JCI MISSION活動計画の推進</p>	<p>(事業を通じて、行ったJCIに関する推進活動を記入)</p> <p>積極的な変革の創造</p> <p>青年経済人であるメンバー含め若者が積極的に行動し、地域をよりよい社会にするためにアイデアを出し合い事業を構築したことにより、地域社会への関心を高めるとともに、機会を提供しました。</p>
<p>添付資料</p> <p>PDF資料2MB、5ページ以内</p>	 <p>The top photograph shows two young boys in a kitchen-like setting, focused on preparing a dish together. One boy is wearing a blue JCI shirt, and the other is in a white t-shirt. They are using a newspaper as a liner for a bowl.</p> <p>The middle photograph depicts a group of people, including several in blue JCI shirts, gathered around a table. They appear to be engaged in a workshop or meeting, with some looking at a laptop and others at documents.</p> <p>The bottom photograph is a large group photo of approximately 40 people, many wearing blue JCI shirts, posing in a well-lit room with wooden floors and walls.</p>

(AWARDS TOHOKU 2020 申請概要)

ひとづくり委員会 委員長 長嶋 正継

未来へワクワクした気持ちを

未来学校へ行こう！ ～みんなでワクワク体験～

一般社団法人南陽青年会議所は2020年8月4日曜日に未来学校へ行こう！ ～みんなでワクワク体験～を熱中小学校にて行いました。詳細の内容につきましては、下記内容をご覧ください。

この未来学校へ行こう！ ～みんなでワクワク体験～は新しい技術を楽しみながら学び、未来に対してワクワクした気持ちを持ってもらうことを目的として開催されました。子供たちが、我々では想像もなかったような夢を描き、明るい未来を創っていくことに繋がったという結果、目的を達成する事ができました。

<p><u>未来学校へ行こう！ ～みんなでワクワク体験～とは？</u></p>	<p>写真 1</p> 
<p>詳細な事業内容 期日:2019年8月4日 会場:熱中小学校 第1部では、講演を聞き、未来がどうなっていくのか、新しい技術や考え方を学びます。 ・第2部では、体験学習を行います。プログラミング体験と3Dプリンター、2つの学習を行います。 《第一部》 内海弦氏による講演</p>	<p>写真 2</p> 
<p>、IOTとはなんなのか、どんな新しい技術があるのか、どんなことを学んでいけばよいのか話していただく。 《第二部》 3つの会場を使い、休憩を挟みながら2つの体験学習を行います。 メンバーも参加者と一緒に、体験学習を行います。</p>	<p>写真 3</p> 